きずな

文化財保護センターだより

第16号　　平成8年7月15日

財団法人　岐阜県文化財保護センター

〒500 岐阜県岐阜市司町1(岐阜総合庁舎内)　TEL058-264-1111(代) FAX058-264-0343

●もくじ

表　紙　速報展「よみがえる縄文の世界―旧徳山村」… 1
挨　拶　調査の成果を活かして　篠田幸男理事長 …… 2
組　織　平成8年度役職員・事業計画 …… 3
調　査　牧野小山遺跡、小関御祭田遺跡発掘調査状況… 4
トピックス　古窯から出土した刻銘中世陶器 …… 5
行　事　縄文中期の土器群が注目を集めた速報展 … 6
声・記録　飛騨出張所から …… 8
センター日誌ほか

「よみがえる縄文の世界―旧徳山村」岐阜県博物館にて速報展開催

徳山ダム建設に伴う旧徳山村(現揖斐郡藤橋村)の埋蔵文化財発掘調査は、全村を10年以上の長期にわたって調査することで、多方面から注目を集めています。

この旧徳山村出土の縄文時代の遺物約 500点を、6月11日から27日までの間、関市小屋名の岐阜県博物館において展示し、多くの方にご覧いただきました。

調査の成果を活かして

(財)岐阜県文化財
保護センター
理事長　**篠田 幸男**

この4月より岐阜県文化財保護センターに勤務することになりました。岐阜県博物館に勤務したこと以外、埋蔵文化財の調査に関してはほとんど経験したことがありませんが、設立6年目を迎えた当センターの事業の発展・活性化をめざして努力いたす所存でございます。よろしくご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

さて、近年さまざまな開発が県内各地において行われており、これに関連して埋蔵文化財の発掘事業も年々大幅に増加の一途を辿っています。

当センターでは、平成7年度、9市町村において13遺跡の発掘調査を進めてまいりましたが、本年度は11市町村において16遺跡の発掘調査を実施することになりました。このうち13遺跡は本年度から新しく調査に入るものであり、範囲も4市4郡に亘っています。職員も本年度大幅に増員され53名に膨れあがり大所帯になりました。さらに来年度も事業量の拡大が予想されております。

発掘調査を進めている遺跡も縄文時代から中世までの約1万年に近い年代にまたがっており、発掘に携わっていてくださる作業員の方々のお力を借りているわけであります。

文化庁は平成7年度より、埋蔵文化財発掘調査の成果の活用を目的として「新発見考古速報展」を企画し、平成7年度は7会場で開催し、16万人 を超える入場者をみました。平成8年度も8会場において、長野県松本市のエリ穴遺跡から発掘された女性全身像土版(どばん)をはじめ、全国39遺跡等で出土した旧石器時代から近世に至る遺物が展示されることになっています。近隣では、滋賀県の安土城考古博物館において今年の年末から年始にかけて開催されます。

当センターも時を同じくして、速報展を岐阜県博物館で開催いたしました。本号で紹介しています「よみがえる縄文の世界」のテーマのもと、当センターが手がけてきました旧徳山村より発掘された遺物を展示いたしました。この展示は近年、増加の一途を辿っている埋蔵文化財発掘調査に対する私たちの保護姿勢を、広く県民の皆さんにアピールするとともに、埋蔵文化財保護思想の普及をめざすものであります。

出土品の中でも特に戸入村平遺跡から出土した縄文時代中期の東海系の深鉢は、ごく一部が欠損しているのみで全形を保っており、この時期の貴重な遺物とされています。関係者のご協力により多くの参観者を得て、盛会裡に幕を閉じることができました。

速報展の開催にあたり、かつて岐阜県博物館に勤務した2年の間に企画した特別展を回顧し、懐かしい思い出が甦りました。人文関係では木地師(きじし)の世界を描いた「ふるさとの木の文化」、郷土史再発見をめざして縄文時代の出土品等を中心に企画した「飛騨のあけぼの」、自然関係ではふるさとの自然史の理解をめざした「恐竜」等がそれであります。

現在、全国的にみましても、発掘事業に対する助成の充実、広報・普及事業に対する助成措置、収蔵施設の完備、専門職員の研修、さらに文部省科学研究費出願機関としての認可など、さまざまな問題を抱えています。これらの問題を一つ一つ解決することによって、より一層事業の円滑化を図ることができるものと思います。

今後とも当センターの諸事業に格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成8年度の組織（平成８年６月現在）

●役　員

会　　長　梶原　　拓（岐阜県知事）
副 会 長　森元　恒雄（岐阜県副知事）
理 事 長　篠田　幸男
副理事長　相撲　正一
参　　与　島塚　定男
専務理事　河合　周治
常務理事　石黒美智雄
理　　事　浅野　　勇（岐阜県市長会会長）
理　　事　清水　敏郎（岐阜県町村会会長）
理　　事　後藤左右吉（岐阜県都市教育長会会長）
理　　事　平野　　敬（岐阜県町村教育長会会長）
理　　事　大野　政雄（岐阜県文化財保護審議会会長）
理　　事　高井　正文（岐阜県総務部長）
理　　事　小川　　修（岐阜県農政部長）
理　　事　斎藤　　博（岐阜県土木部長）
理　　事　森本　安彦（岐阜県開発企業局長）
理　　事　大宮　義章（岐阜県教育長）
理　　事　今井　春昭（岐阜県教育委員会指導部長）
理　　事　清水　廣美（岐阜県博物館長）
監　　事　藤田　幸也（岐阜県出納長）
監　　事　芝田　政之（岐阜県教育委員会管理部長）

●職　員

理事長　篠田　幸男
副理事長　相撲　正一
参　　与　島塚　定男
専務理事兼事務局長　河合　周治
常務理事兼総務部長　石黒美智雄
総務部　課　　長　平林　哲男
　　主　　査　渡辺　紀和
　　主　　任　田中　康宏
　　事務嘱託　岩谷　美里
　　事務補助　高橋　律子
調査部　部　　長　臼井　　進
　　次　　長　小木曽文和
　第１課　課　　長　高橋　幸仁
　　課長補佐　飯沼　暢康・竹中　一秋・早野　壽人・稲川　　威
　　学芸主事　堀田　一浩・河瀬　実浩・大知　正枝・増子　　誠
　第２課　課　　長　中島　康夫
　　課長補佐　篠田　通弘・河村　一彦・小谷　和彦・松野　晶信
　　学芸主事　大橋　弘志・藤田　英博・春日井　恒・近藤　大典
　　小野木　学
　第３課　課　　長　市原　輝明
　　課長補佐　片桐　隆彦・富田　雅之・藤岡比呂志・安江　祥司
　　岡田　吉孝・千藤　克彦
　　学芸主事　佐野　康雄・堀　　正人・成瀬　正勝・村瀬　泰啓
　　小塩　康真・松岡　千年・澤村雄一郎・長谷川幸志
飛騨出張所　所　長　伊藤　秀雄
　　課長補佐　上原　真昭・上出　巳吉・上嶋　善治・谷口　和人
　　調査員　野村　宗作
　　事務嘱託　政井　美子

平成8年度の事業計画

事　業　名	事業者名	調査地	遺跡名	時代等
徳山ダム建設事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	水資源開発公団 徳山ダム建設所	揖斐郡藤橋村 徳山地区	上原遺跡 塚奥山遺跡 山手宮前遺跡 寺屋敷遺跡 磯谷口遺跡	縄文時代の集落跡 縄文時代の集落跡 縄文時代の集落跡 旧石器・縄文・古代寺院跡 縄文～古代の遺物散布地
東海環状自動車道建設事業 埋蔵文化財発掘調査	建設省岐阜国道工事事務所	関市池尻	西屋敷遺跡	中世の水田跡
	建設省多治見国道工事事務所	可児郡御嵩町顔戸	顔戸南遺跡	弥生・中世の遺物散布地
ＶＲテクノジャパン造成事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	岐阜県土地開発公社	各務原市須衛町	船山北古墳群	古墳・古窯跡
ソフトピアジャパン造成事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成		大垣市今宿	今宿遺跡	弥生～古墳、中世の集落跡・水田跡
関テクノハイランド造成事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成		関市下有知	（仮称） 下有知遺跡群	古代～中世の古墳・古窯・集落跡 範囲確認試掘調査
緑ケ丘苗畑跡地利用事業 埋蔵文化財発掘調査		美濃加茂市牧野	牧野小山遺跡	縄文～古墳、古代～中世の集落跡
大規模林道関ヶ原八幡線建設事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	森林開発公団 岐阜地方建設部	不破郡関ヶ原町小関	小関御祭田遺跡	縄文時代の遺物散布地
岐阜環状線改良事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	岐阜県土木部 岐阜土木事務所	岐阜市長良堀田	堀田城之内遺跡	古墳～中世の集落跡
県道岐阜関ヶ原線・大垣池田線改良事業 埋蔵文化財発掘調査	岐阜県土木部 揖斐土木事務所	揖斐郡池田町片山	二ノ井遺跡 片山城跡	古代の遺物散布地 中世の城館跡
国道248号線改良事業 埋蔵文化財発掘調査	岐阜県土木部 可茂土木事務所	美濃加茂市野笹町	野笹遺跡	縄文時代の遺物散布地
主要地方道多治見犬山線改良事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	岐阜県土木部 多治見土木事務所	多治見市北小木町 ・大沢町	北小木大谷洞 古窯跡ほか	中世の古窯跡
丹生川ダム建設関連事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	岐阜県土木部 宮川上流河川開発 工事事務所	大野郡丹生川村 折敷地	たのもと遺跡 丸山遺跡 カクシクレ遺跡 西田遺跡	縄文時代の遺物散布地 縄文時代の遺物散布地 縄文時代の集落跡 縄文時代の集落跡
中山間地農村活性化総合整備事業 埋蔵文化財発掘調査	岐阜県農政部 揖斐土地改良事業所	揖斐郡春日村美束	細野遺跡 梨子谷遺跡	縄文・中世の遺物散布地 縄文時代の遺物散布地
国営飛騨東部第一土地改良事業 埋蔵文化財発掘調査	東海農政局 飛騨東部第一開拓工事事務所	高山市上切町	与島古墳群	古墳等

発掘調査状況

当センターでは本年度、地元関係諸機関や多数の方々のご協力をいただき、県下11市町村16遺跡で発掘調査を実施しています。このうち２遺跡の概要についてお知らせします。

■牧野小山遺跡（美濃加茂市）発掘調査

本遺跡は、美濃加茂市牧野・下米田町小山に所在し、木曽川と飛騨川に挟まれた広大な段丘上に立地します。またこの地域は、縄文時代以降に属する数多くの遺跡が確認されている遺跡の密集地域でもあります。昭和47年度には、本遺跡の西側を通る県道工事に伴う発掘調査が行われ、縄文時代中期後半、弥生時代中期、古代などの各時代の集落の一部が確認されました。

当センターでは、平成７年度に緑ケ丘苗畑跡地利用事業に伴う試掘調査を実施しました。約10万㎡の対象面積に対して、約10％の面積にあたるトレンチを入れてみたところ、約 150軒に及ぶ竪穴住居跡の他、数多くの溝、土坑などを検出しました。竪穴住居跡の多くが５世紀中～９世紀後半に属するもので、遺跡全体が集落という様相を呈しており、東海地域においても最大級の規模を誇るものと考えられます。

本年度は、本遺跡の東南にあたる地区の発掘調査を実施しています。前年度の試掘調査により、遺跡の規模は推定できましたが、竪穴住居跡以外の掘立柱建物跡や水場遺構、耕作地の位置などの遺跡の具体的な性格については不明な点が多いので、これらを解明する遺構の検出に重点をおいて調査を実施しています。現在の調査は、環壕を伴う可能性をもった弥生時代中期の住居跡、古代の住居跡、中世の溝などを精査中であり、大きな成果が期待できそうです。

平安時代の竪穴住居跡

■小関御祭田遺跡（関ヶ原町）発掘調査

本遺跡は、不破郡関ヶ原町大字関ヶ原字蜻蛉谷にあり、大規模林道関ヶ原八幡線建設工事に伴い発掘調査を実施することになりました。

この遺跡は、標高約190～200ｍに位置し、三方を山に囲まれた南に開ける扇状地にあります。また、遺跡のすぐ近くを梨ノ木川が流れ、湧き水も豊富な地形でもあります。

本遺跡は、関ヶ原町史編纂にあたって、昭和54年度に分布調査が実施され、多量の縄文土器や石器類が表面採集されたことから縄文時代中期の遺跡であることが確認されています。

関ヶ原町には、他にも多くの縄文時代の遺跡が川沿いの台地上に分布しています。本遺跡の近くには、西に中島遺跡、南に池寺遺跡があります。また、梨ノ木川の下流に位置する中野遺跡は、昭和37年度に発掘調査が実施されていますが、本遺跡はこの遺跡と同時期と考えられ、その関連が興味深いところです。

本年度、発掘調査を実施する林道建設予定地内は、本遺跡の北側部分にあたり、分布調査では特に石鏃が多く表面採集されています。

現在の調査では、縄文時代中期の土器片や石鏃・石錘などの石器類が多数出土しています。また、土坑などの遺構も検出しています。今後の調査の中で、住居跡などの他の遺構の検出にも目を向けていきたいと考えています。

古窯から出土した刻銘中世陶器

トピックス

（各務原市・船山北３号古窯）

◆年号と寺院名が刻まれた中世陶器

平成７年度に発掘調査を実施した船山北３号古窯から文字が刻まれた中世の陶器片が出土しました。これらの破片を接合した結果、盤（大皿）の底部内面に「奉施入　建久五年十月十八日　祐向寺」（建久五年＝1194年）と記されていることが判明しました。それぞれの破片が窯内と窯に隣接する土坑から出土していることから、３号古窯で焼成されたことは明らかです。

このような刻銘を有する陶器の資料は、県内では3例目となり、現在のところ最古の資料です。また、今回出土した刻銘中世陶器は「建久五年」という年号から陶器の製作年代を具体的に知る手がかりになるとともに、製品が納入される先として「祐向寺」という寺院名が記されていた点が特に注目されます。

刻銘中世陶器

刻銘中世陶器以外に、３号古窯からはこの時代に一般的に使用された碗・皿類も出土しました。さらに陶硯（陶器の硯）・火舎（脚をもつ香炉）・花瓶（花器）などの特殊な製品も出土しましたが、こうした製品はある限定された人々のみに用いられる製品であり、祐向寺に納入される予定の品々であったのかもしれません。

３号古窯出土品

◆「祐向寺」の存在

それでは、「祐向寺」はどこにあるのでしょうか。残念ながら「祐向寺」という寺院は、県内には現存しません。

しかし、山県郡美山町蓮華寺蔵の大般若経の奥書に「応永十一年祐向寺徳杖坊長昭」（1404年）とあるのが認められます。刻銘陶器の示す年号とは２００年以上も開きはありますが、他の文献史料にも「応永二十七年濃州本栖郡祐向寺徳杖坊長昭」（1420年）とみられることから過去には県内のどこかに存在していたと考えられます。

また、「祐向」の地名に着目すると、本巣郡本巣町に祐向山城と呼ばれる古城跡があります。この城跡は、永禄七年（1564）に竹中半兵衛が稲葉山城を占領した際に、斎藤龍興が逃れた城として知られ、最近では後に古田織部の居城であったとする説もあり、県内では著名な城跡の一つです。祐向山城は東・中・西の城の３つに分かれ、そのうちの中の城に近い尾根上には地元の伝承によると毘沙門堂があったとされています。

以上のことから、現在の段階ではこの近辺の山麓やふもとの平野部に「祐向寺」が存在していたのではないかと推測しています。しかし、文献史料に場所が示されていたわけではなく、また時代も違うことから祐向寺の位置を特定する状況にはありません。今後、多方面からの研究によって、刻銘に記された「祐向寺」の存在が明らかになることが期待されます。

縄文中期の土器群が注目を集めた速報展　行事

■10年を越えた埋蔵文化財発掘調査

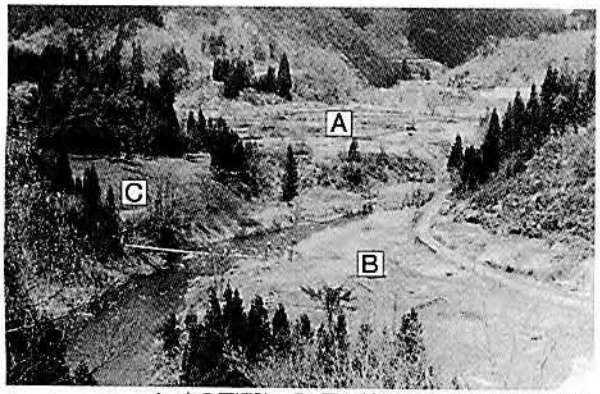
揖斐郡藤橋村徳山地区（旧徳山村）は、岐阜・福井・滋賀の県境に位置しています。縄文時代には西日本や東日本、あるいは東海地方や北陸地方の文化が流入し、それぞれの影響を受けながら豊かな文化を育んできました。

この徳山地区が徳山ダム建設により水没するため、昭和62年度から岐阜県教育委員会が、平成３年度からは県教育委員会より委託を受けて、当センターが埋蔵文化財の発掘調査を進めてきました。この調査が10年を経過したことを機に、経過報告という形で速報展を開催いたしました。

◆一つの地域としての戸入地区の3遺跡

今回の展示の中心は、揖斐川支流西谷川の段丘上にある戸入地区の３遺跡「小の原遺跡」「戸入村平遺跡」「はいづめ遺跡」から出土した遺物です。

これらの３遺跡は西谷川を挟んでごく近い距で向かい合うように位置しています。その出土遺物や遺構の様子から、縄文時代早期より弥生時代前期まで、多少の空白期間はあるものの連続して生活が営まれた一つの地域と考えられます。



A. 小の原遺跡　B. 戸入村平遺跡　C. はいづめ遺跡

◆造形美あふれる土器群

戸入村平遺跡の第４号住居跡から出土した土器群は、縄文時代中期の造形美あふれる素晴らしい遺物であるばかりでなく、この時代の土器関係を知る上で極めて重要なものです。

写真上段中央の土器は、口縁部の文様が外側に張り出す立体的なもので、最も発達した装飾技法を用いた貴重な例です。「美濃の火炎土器」「スペインのガウディの作品を彷彿とさせるデザイン」などと入場者の方々から注目を集めました。

戸入村平遺跡第4号住居跡出土土器群

◆縄文人のさかんな交流

この第４号住居跡からは大量の土器が出土しました。その文様や器形を見ると、美濃独自の要素をもつもの、東海地方の影響を受けたもの、北陸地方に類例のあるものなどがあります。

また、遺跡から出土した石製品から確認された石材の産地としては、二上山（奈良県）・糸魚川（新潟県）などがあります。こうしたことから、縄文時代中期の時期に、この奥深い徳山の地に住んでいた人々が、他の地域の人々とさかんに交流し、栄えていたことがうかがえます。

速報展の関連行事として、6月16日(日)に岐阜県博物館のマイミュージアムハイビジョンホールにおいて、愛知学院大学大参義一先生、京都大学原子炉実験所藁科哲男先生をお迎えして記念講演会を開催したところ、約200名の方々が聴講されました。

石製品から見た戸入村平遺跡の特徴

藁科哲男先生の講演より

藁科先生には、出土した石製品の石材の産地がどこであるのかを成分組成から調べていただいています。講演では、その分析方法である蛍光X線分析の説明やその方法を確立するまでの苦労話を交えながら、具体的な資料を用いて、石製品から見た戸入村平遺跡の特徴についてお話をしていただきました。

◆神津島（伊豆諸島）からもたらされた黒曜石

戸入村平遺跡から出土した黒曜石には、霧ケ峰（長野県）、柏峠（静岡県）さらに遠く神津島（東京都）で産出されたものがあることが分析結果から分かっています。

伊豆諸島の神津島で産出される黒曜石は、激しい黒潮の流れを越えて、さらに南の八丈島に伝えられたり、遠く日本海側の能登半島まで伝えられたりしています。このように神津島産の黒曜石が伝えられていく中で、戸入村平遺跡にももたらされました。当時の人々の活発な交流が存在したことがわかります。

縄文時代の戸入地区

大参義一先生の講演より

大参先生には、徳山地区全体の指導調査をお願いしています。講演では、おだやかな口調ながらも、多くの身振り手振りを交え語られる姿に、時間のたつのも忘れるほどでした。

時代順に「小の原遺跡」「戸入村平遺跡」「はいづめ遺跡」の各遺跡の遺物や遺構にふれながら縄文時代全般に亘る興味深いお話をしていただきました。

◆土器の出現と植物性食料への依存

土器を活用し始めたことによって、二つの大きな生活の変化が見られるようになりました。第一に、食物を煮炊きすることが可能になったことです。そのことにより、植物性食料の摂取が増加し、より豊かで安定した食生活がもたらされました。第二に、狩猟よりも植物性食料を採集する生活に移行することで、常に移り住む生活から集落を形成し定住化に近づいていくことになりました。その結果、作業の分業化や知識の伝達やその蓄積の場がうまれてきました。

◆出土遺物が裏付ける「採集・狩猟」生活

縄文時代は、「狩猟・採集」経済の時代とよくいわれますが、正確には「採集・狩猟」であり、木の実などの堅果類や山イモなどの根菜類を採集し、加工・調理した食料が多かったのではないかと考えられます。実際に戸入地区の3遺跡からも、打製石斧や磨石・敲石類及び石皿などの調理用具が多く出土する事実がこれを裏付けています。

整理作業に参加して

飛騨出張所の整理作業員さん

縄文の香り漂う何万という土器片の中から同一個体を探し接合する作業はとても楽しく、仕事ということも忘れてついつい夢中になってしまう毎日です。職場の和気藹藹（わきあいあい）とした雰囲気も仕事の楽しさを倍増させてくれます。

「カチッ」と接合できた時の感動は胸の奥に響くものがあります。知恵と技術と心を込めて作られた土器を、時を越えて今の私達が手にしているということにいにしえを想い、一日のうちで一番集中できて楽しい時間です。

遺物を実測していると、いにしえの人々の生活やその器を作った人々の生活を覗けるような気がして、人間の絆（きずな）に不思議な想いがします。細かい仕事の中で緊張と刺激を覚える毎日ですが、仕事の中で勉強できることをとても嬉しく思います。

接合の仕事から実測の仕事に替わり、約三カ月半。少しは慣れてきましたが、毎日悩みながらの日々です。でも完成した時、特に複雑な形や模様が書けた時の感激は最高です。下手ながらも忍耐と努力で頑張りたいです。

センター日誌

2.13　愛知学院大学大参教授、船山北古墳群調査指導
　　岐阜市教委高木係長・岐阜市遺跡調査会山田氏、堀田城之内遺跡視察
16　岐阜大学早川助教授・京都精華大学脊古講師・名古屋市立女子短大横田助教授、高畑遺跡視察
　　岐阜市教委内堀氏・岐阜市遺跡調査会橋詰氏、堀田城之内遺跡視察
20　池田町教委横幕氏、高畑遺跡視察
22　県土地開発公社服部理事長他３名、船山北古墳群・牧野小山遺跡視察
　　各務原市教委西村氏、船山北古墳群視察
3. 3　船山北古墳群現地説明会（351名参加）
25　理事会
31　吉田理事長他６名退任
4. 1　篠田理事長他１４名着任
15　牧野小山遺跡、二ノ井遺跡発掘調査開始
19　下有知遺跡群発掘調査開始
25　全埋文中部北陸ブロック研修会（静岡市）
28　揖斐川町文化財保護協会40名、揖斐川整理所見学
5. 7　西屋敷遺跡、顔戸南遺跡、北小木古窯跡、船山北古窯跡、発掘調査開始
8　与島古墳群、たのもと遺跡、丸山遺跡調査始め式
10　上原遺跡、塚奥山遺跡、細野・梨子谷遺跡、調査始め式
13　小関御祭田遺跡調査始め式
14　野笹遺跡調査始め式
15　岐南町立東小６年98名、牧野小山遺跡見学
17　関ケ原町教委林氏他４名、小関御祭田遺跡視察
20　池田町教委横幕氏、二ノ井遺跡視察
　　岐阜縄文土器クラブ13名、穂積整理所見学
22　奈良国立文化財研究所松村室長、東京国立文化財研究所青木室長、文化財保護審議会大野会長、飛騨出張所来所
23　愛知教育大附属岡崎中２年21名、上原遺跡にて体験学習
24　岐阜大学早川助教授、二ノ井遺跡関連指導
28　関ケ原町教委林氏、小関御祭田遺跡視察
　　三重大学八賀教授、二ノ井遺跡調査指導
29　池田町教委横幕氏、二ノ井遺跡視察
31　可児郡兼山町立兼山小６年28名、牧野小山遺跡見学
　　各務原市教委西村氏、船山北古窯跡視察
6. 3　丹生川村村史編纂室６名、他1名、与島古墳群視察
4　池田町教委横幕氏、二ノ井遺跡視察
6～7　全埋文総会（松山市）
11～27　速報展「よみがえる縄文の世界―旧徳山村」（入場総数3419名）
　　県高校教育研究会公民・地歴部会80名、速報展見学
　　奈良国立文化財研究所玉田文部技官、穂積整理所整理指導（～12）
16　記念講演会（於県博物館、参加184名）
17　教育センター研修講座（中学校社会科教師12名）牧野小山遺跡にて実施
19　文化庁原田調査官、速報展視察
24　理事会

あとがき

本号で掲載しましたように、速報展「よみがえる縄文の世界―旧徳山村」には、大勢の方々にお越しいただき、私どもにとって、大きな励みとなりました。また、開催期間中に大参義一先生、藁科哲男先生に講演をしていただきました。それぞれの研究分野から縄文時代の人々が広範囲にわたる交流を通して豪放、闊達な生活を営んでいたことを教えていただき、ありがとうございました。無事速報展を終えることができ、県教育委員会、県博物館をはじめ、ご支援いただいた皆様に御礼申し上げます。

本年３月、平成４年度から理事長の任にあった吉田豊が退任し、本年度から篠田幸男が理事長に就任いたしました。全職員一丸となって埋蔵文化財の発掘調査や保護思想の普及に努めてまいりますので、変わらぬお力添えをお願いします。